

薬剤感受性検査が耐性の場合

小川培地では薬剤とくに RFP が卵へ吸着し正確な試験濃度が得られないという欠点があるため、小川培地を用いた検査で RFP 耐性であった場合、他の検査法で再検査する必要があるかもしれない。

MGIT 培養では、INH、RFP、SM、EB、LVFX5 剤にしか実施できないようです。

MGIT 培養による薬剤感受性検査で HRESL 感受性の場合そのまま感受性有りて確定してもよいが、もし MGIT 培養で HRESL のどれかに耐性があった場合、小川培地による比率法で再検査し、その結果を確定とする必要がある。

MGIT 培養検体での薬剤耐性は INH と SM においては、一概に信頼しない方がよいようです。

MGIT 培養検体で INH 耐性の場合、小川培地による比率法の結果を待ち判断する。

平成 30 年 1 月 10 日 大分県東部保健所 検査課 診療放射線担当作成